

深川

タウン誌
ふかがわ

Town Magazine Fukagawa

2023/3-4月

No. 270

偶数月25日発行

江戸和船

特集

開局!

令和五年 深川八幡祭り

わっしょい深川 情報局

3月18日(土)~4月2日(日)

お江戸深川さくらまつり情報

連載 波郷生誕110周年

江東歳時記を歩く

【清澄白河周辺】

特集

江戸和船

江戸時代から運河が縦横に流れる
深川では、人や物資を運ぶ
さまざまな和船が行き交い、
人々の暮らしを支えていた。
日本古来の江戸和船の文化を
継承する人々を訪ね「造る」
「操る」「歴史」の3つをテーマに、
江戸和船の魅力を探る。



和船友の会は平成7年に発足した船頭のボランティア団体。
毎週、横十間川親水公園で無料の乗船体験と櫓漕ぎ体験を
行なっている。乗って、漕いで、楽しむ、和船の魅力。

今年の初漕ぎ・安全祈願で「和船友の会」のみなさん(写真提供：和船友の会)

操る

和船技術を伝承して

28年目を迎えた

船頭の会

今年1月8日(日)、「和船友の会」が横十間川親水公園の海砂橋下にある乗船場で、初漕ぎと一年の安全祈願を行なった。色鮮やかな大漁旗がはためくなか、和船と川面にお神酒をかけ、船首には松飾りに鏡餅、塩、米、いりこを供える。コロナ以前は、相撲甚句や和太鼓も加わり、賑々しく新年を迎えていたという。

和船友の会は、発足して今年

で28年目。平成4年に江東区が木場親水公園を整備する際、モニメントとして2隻の和船を復元したことをきっかけに、区からの呼びかけで結成した。現在は和船と櫓漕ぎに魅了された女性6人を含む55人(1月末現



朝8時半から操船準備に精を出すみなさん



「お江戸深川さくらまつり」では大横川で和船に乗船できる(事前予約制)

在)が船頭として在籍。漁師や船大工といった実際に和船を操る人たちから操船技術を継承し、後世に伝えるため、毎週、横十間川親水公園で乗船体験や櫓漕ぎ体験を行なっている。

「コロナ前は年間5千人ほど、

イベント時も含めると多い年は



左から鈴木惣之助さんと加藤克巳さん。「まだまだ勉強の身、死ぬまで船頭を続けるつもり」(加藤さん)

1万人を超える人が乗船しました。観光事業ではないので宣伝はしていませんが、インターネットなどで情報を得た外国人観光客もやってきます」とは、同会で事務局を担当する鈴木惣之助さん(76)。

今年(2023年)は3年ぶりに「お江戸深川さくらまつり」にも出船。3月18日(土)と4月2日(日)の土日祝日は、大横川の黒船橋周辺で運航する予定だ。

今年(2023年)は3年ぶりに「お江戸深川さくらまつり」にも出船。3

月18日(土)と4月2日(日)の

土日祝日は、大横川の黒船橋周

辺で運航する予定だ。

和船を末永く大切に

活動日の朝は早い。10時から始まる乗船体験に向け、8時半には集合して操船準備に忙しい。デッキブラシで船を洗う人、中には船内にまでじゃぶじゃぶと川水をかける人もいる。こうすることで和船の美しい木色が保て、防水にもなる。

「こここの和船はスベシャルですよ。メンテをしながら良い状態を保ち、労わる気持ちで大切にしたい」とは、副会長の加藤克巳さん(64)。コロナ禍で乗船体験ができない間も、手入れだけは毎週欠かさなかった。

和船にはそれぞれ名が付けれ、使用している6隻の和船は区が所有。「ゆりかもめ」「みやこどり」の2隻は区無形文化財の佐野造船所で建造されたものだ。会では和船の動態保存のため維持管理も行ない、海砂橋の

下の工房で年2回のメンテナンス。また、各所から譲り受けた櫓や樫も保管して、船にあわせて細かな調整もしている。

船頭になつて

日曜日の乗船日はとくに家族連れが多いが、一人で訪れる人も少なくない。乗船名簿に名前と連絡先を記入したらライフジャケットを着用。案内されたのは昭和35年建造の網船「かる



海砂橋の下にある和船工房には譲り受けた櫓や樫が大切に保管されていた



船頭3年目の浅見明子さん



川との距離の近さも和船の魅力。ベテランの船頭・内藤政昭さんは船首に乗り安全確認

前仲町で飲食店を営むが、「富津の漁師の倅で、子どもの頃から遊びで和船を漕いでいた」と、すっかり板についた裨天姿で笑った。

最近では若い船頭も増え、昨年は初の米国人の船頭も誕生。和船の魅力は、ますます広がるばかりだ。

がも」だ。足もとの揺れに注意しながら慎重に乗り込み、ゆっくりと腰を下ろすと、静かに和船は走り出した。

「ギーコ、ギーコ」と櫓を漕ぐリズムや水音が心地よく、陸上では気づかなかつたが、小鳥のさえずりまで聴こえる。見慣れた公園の景色もどこか魅力的に思えてくる。和船の上は究極の癒しの空間だった。

「かるがも」の船尾で櫓を漕ぐのは、船頭になって3年目の浅見明子さん(39)。もともとは力又一乗りだったが、友人に勧められ船頭になった。「漕いでみたら趣きはあるし、木の匂いも良いですよ。櫓一本でこんな大きな船を動かすのは楽しいなって」。

浅見さんは視線を進行方向に、小柄な身体を前後に倒してゆったりと楽しそうに櫓を操っている。櫓漕ぎのコツは体重をのせることで、腕の力はさほど必要ないため、女性や子どもで

も気軽に櫓漕ぎ体験ができる。しかも乗船・体験ともに無料だ。船頭として本格的に活動したい人は、練習生として操船技術を学ぶこともできる。先輩船頭がつきつきりで指導した後、検定試験で技量を判定。早い人は3か月ほどの訓練で一通りをマスターできる。

だが「練習生の希望者が多く、受け入れを待ってもらっているんです」とは、会長の富塚富雄さん(68)。富塚さんは門



横十間川親水公園の海辺乗船場 / MAP・D4 (江東区海辺8-4・海砂橋近く)
 操船日は基本、毎週水曜日、第2・4日曜日。
 ※「お江戸深川さくらまつり」期間中や季節により変更あり。友の会HP参照。
<https://www.wasen-tomo.com/index.html>